



CONTENTS

2018年度 聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、
あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

(ヨハネによる福音書第13章34節)



- | | |
|------------------------------|-------|
| 和泉の実習への取り組み..... | 2 |
| 日本キリスト教社会福祉学会開催 | 3 |
| 2018年度新任教職員紹介..... | 5 |
| 2017年度決算書・2018年度予算書 概要 | 6 ~ 7 |

和泉の実習への取り組み



和泉短大で学ぶほとんどの学生は、卒業後その夢を実現し、保育・福祉の仕事に就きます。人に寄り添う専門性の高い仕事ですから、資格・免許を取得して現場に立つことは簡単ではありませんが、各グループの「実習指導担当教員」が2年間継続して全ての実習関連授業を主担当する本学独自の教育システムが、学生の夢を実践現場へと繋ぐ上で大きな効果をあげていると言えるでしょう。

保育者を目指し歩む主体は学生自身ですが、入学直後から進路選択・就職に加え、学年合同の全体授業、各現場実践経験をもつ教員によるグループを越えた枠組みでの授業、准教授として現場に立つことは簡単ではありませんが、各グループの「実習指導担当教員」が2年間継続して全ての実習関連授業を主担当する本学独自の教育システムが、学生の夢を実践現場へと繋ぐ上で大きな効果をあげていると言えるでしょう。

職後の学生の育ちに指導担当教員が継続的に寄り添います。実際の授業カリキュラムでは、グループ別の授業に加え、学年合同の全体授業、各現場実践経験をもつ教員によるグループを越えた枠組みでの授業、准教授として現場に立つことは簡単ではありませんが、各グループの「実習指導担当教員」が2年間継続して全ての実習関連授業を主担当する本学独自の教育システムが、学生の夢を実践現場へと繋ぐ上で大きな効果をあげていると言えるでしょう。

職後の学生の育ちに指導担当教員が継続的に寄り添います。実際の授業カリキュラムでは、グループ別の授業に加え、学年合同の全体授業、各現場実践経験をもつ教員によるグループを越えた枠組みでの授業、准教授として現場に立つことは簡単ではありませんが、各グループの「実習指導担当教員」が2年間継続して全ての実習関連授業を主担当する本学独自の教育システムが、学生の夢を実践現場へと繋ぐ上で大きな効果をあげていると言えるでしょう。

准教授として現場に立つことは簡単ではありませんが、各グループの「実習指導担当教員」が2年間継続して全ての実習関連授業を主担当する本学独自の教育システムが、学生の夢を実践現場へと繋ぐ上で大きな効果をあげていると言えるでしょう。

和泉の実習への取り組みと実習サポートセンターの役割

実習サポートセンター長 准教授

山本 美貴子

2年 相原 尚果

(県立上溝高等学校出身)



幼稚園実習を通して、保育者の関わり方の工夫で活動のねらいを考えることができます。また、子どもの様子をしっかりと見て、遊びに発展しているのか子どもを観察することができます。そこで、一人ひとりにあつた声掛けや援助ができる、保育者の関わり方で子どもが意欲的になつたり、色々なことに挑戦できるのだと学ぶことが出来ました。

この実習で学んだことを胸に子どもに寄り添える保育者になりたいと思いました。

実習を通して

2年 坪 桃香

(県立城山高等学校出身)



保育園実習を通して、子どもたち一人一人の发育・発達状態に合わせた支援を行うことが大切だということを感じました。実習園では子どもが主導的に自分でできるよう、という保育内容でした。そのため年齢に応じた支援をすることを意識しながらも、一人の子どもとして見た時に、発達状態はどうかを見極めていくことが必要だということを学ぶことができました。それと同時に頭で理解しても、子どもと関わるうちに支援の仕方が違うと感じたりすることがあり、難しさを感じました。このような経験から子どもにとって大切な支援はとにかく、さらに考えていくたいと思いました。

2年 谷林 夢唯

(県立厚木西高等学校出身)



私は障がい者支援施設で実習を行いました。今まで半日の施設ボランティアでしか障がいのある方とのかかわりはない、身近にもいなかつたため、深くかかわるのはあります。

また学生にとってのセンターは、信頼される大人として社会に踏み出すスタートラインのような場所です。センター一同、学生を応援する

専攻科 田中 珠希

(県立上溝高等学校出身)



私は特別養護老人ホームで実習させていただきました。高齢者施設での実習は今回が初めてでしたが、利用者の希望と利用者の残存機能の活用の両立の難しさを学びました。

この実習が初めてでした。自分からどのように利用者さんとかかわっていけば良いのか緊張や不安、戸惑いでいっぱいでした。しかし、自分から積極的に利用者さんにコミュニケーションを取りに行くと、利用者さんなりに反応をしてくれたり、会話をしていく「楽しい」と思うことが増えました。他にも食事介助や入浴介助など、多くのことを学びました。この学びを今後も大切にしていきたいです。

この実習が初めてでした。自分からどのように利用者さんとかかわっていけば良いのか緊張や不安、戸惑いでいっぱいでした。しかし、自分から積極的に利用者さんにコミュニケーションを取りに行くと、利用者さんなりに反応をしてくれたり、会話をしていく「楽しい」と思うことが増えました。他にも食事介助や入浴介助など、多くのことを学びました。この学びを今後も大切にしていきたいです。



日本キリスト教社会福祉学会第59回大会が開催されました

6月22日(金)・23日(土)の二日間、日本キリスト教社会福祉学会第59回大会が、本学を会場として開催されました。本学では1961年の第2回大会以来、今回で5回目の大会開催となりました。

今大会は、「弱きを担う —キリスト教社会福祉の原点を問う—」をテーマとし、全国から200名を超える参加者が本学に集い、キリスト社会福祉実践の現在と未来について討議を深めました。

大会第一日目は、西田恵一郎チャプレンが説教を務めた開会礼拝に始まり、木原活信会長(同志社大学教授)の基調講演「弱さの向こうにあるもの」、シンポジウム「弱さを担う：キリスト教社会福祉の原点を問う」、本学園理事長・深町正信先生による記念講演「和泉の歩みと宣教師の働き」、情報交換会等が行われました。続く二日目は、会員による10の研究・実践報告がなされた「研究発表・実践報告分科会」、パネルディスカッション「津久井やまゆり園事件から共生社会を考える」が実施されました。ワークショップ(施設見学会)では、わが国最初の重症心身障害児施設である「島田療育園」や、本学のルーツである「バット博士記念ホーム」の視察を行いました。

大会開催にあたっては、佐藤守男学長を委員長とする大会実行委員会が結成され、学内の教職員が一致団結して準備にあたりました。また、学会事務局を担う横浜YMCAの皆さんからも大きなご助力を頂きました。参加者からは、「ホスピタリティあふれる大会であった」、「和泉やバットホームが担ってきたキリスト教児童福祉の歴史をこれからも重ねてほしい」といった声を頂戴いたしました。



今号より専任教員の研究・実践を紹介する“シリーズ研究室紹介”を掲載します。

シリーズ研究室紹介①

教授 鈴木 敏彦

私は、「福祉サービス利用者の権利擁護」を専門とし、ここ10年ほどは障害者虐待防止、障害者差別の解消、障害のある人々への意思決定支援等について研究や実践を進めてまいりました。この度、研究の成果の一つが、研究誌『社会福祉研究 第131号』(公益財団法人鉄道弘済会刊)に、論文「障害者虐待防止法施行5年を振り返る：虐待防止・対応システムの進展に向けた課題」として掲載されました。現在、わが国では、障害者権利条約(2006年)を原点とする国際的なスタンダードに基づく障害児者支援のあり方について模索が続いている。この度の論文では、障害者の人権をめぐる世界の動向を基軸とした障害者虐待の防止・対応システムの必要性について論じました。

一昨年、本学の所在する相模原市では、津久井やまゆり園事件が発生し、改めて共生社会のあり方が問われています。私は、現在、神奈川県の「意思決定支援専門アドバイザー」を務め、やまゆり園居住者の皆さんが今後、誰とどのような生活を送るのかということを当事者とともに考える役割を与えられています。障害者を排除する社会は「弱くもろい社会」であると言われます。私の研究や実践は大変小さなもののですが、「排除の社会」から「ともに生きる社会」の実現に少しでも資することが出来ればと考えております。

<p>社会福祉研究</p> <p>特集テーマ 罪を犯した人の福祉支援を考える —地域でいかに支えるか—</p> <p>鈴木 敏彦</p> <p>2018.4 会員割引価格</p>	<p>障害者虐待防止法施行5年を振り返る —虐待防止・対応システムの進展に向けた課題—</p> <p>鈴木 敏彦</p> <p>2018.4 会員割引価格</p>
--	---

国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン リジョン賞の授与式が行われました

2018年5月17日(木)、相模原市民会館(4階 第3中会議室)において、児童福祉学科2年 久富朋代さんが、国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン「ソロプチミスト 夢を生きる：女性のための教育・訓練賞」および、国際ソロプチミスト相模「クラブ賞」を国際ソロプチミスト相模 山田洋子会長から授与されました。

国際ソロプチミストアメリカ日本東リジョン「ソロプチミスト 夢を生きる：女性のための教育・訓練賞」は、1972年以来、今以上の教育や技能訓練を得ることによって、より良い生き方を目指している女性を応援し、賞金を提供するものであり、国際ソロプチミストアメリカの主要なプログラムです。

「夢を生きる賞」：女性のための教育・訓練賞

国際ソロプチミスト相模 会長 永保 恵子

国際ソロプチミスト相模は、和泉短期大学ハンドベルクワイアをシグマソサエティとしてスポンサーしております。長年交流が続く中、この度SIAのプログラムである「夢を生きる賞」に久富朋代さんが日本東リジョン賞に輝きました。この賞は、家族に対して経済的扶養責任があり、自己の雇用状況、生活水準を向上させるため技術的訓練や教育を得ようとしている女性を支援する目的で設けられた賞です。しっかりと家族を支え、未来に向けて向上しようとしている女性が選ばれとても嬉しく思っております。

国際ソロプチミスト奨学金を受けて

2年生 久富 朋代

子育てをしながらの勉学にとっては、奨学金は大変ありがたいものです。経済的に助かるのはもちろんのことですが、将来に向かって準備している私を応援してくれる人がいると思うと大変心強く、励みになっています。

TOPICS

2018年度高校教員進学説明会

2018年5月22日(火)・23日(水)の2日間、本学にて「2018年度高校教員進学説明会」を開催いたしました。本学の概要説明、2019年度の入試説明の後、個別相談学内見学をしていただきました。



第10回保育・福祉高校教員研究会

2018年6月1日(金)、第10回保育・福祉科目高校教員研究会を開催し、東京都、神奈川県の高校から保育福祉関係科目担当の先生方に参加いただきました。第1部では、久保小枝子専任講師による講義「遊びを中心とした幼児の生活」、教育研究「ゲームで遊んでみよう！」を行い、第2部では「意見交換・情報交換会」を行いました。



避難・防災訓練

2018年6月13日(水)公益財団法人 相模原市まち・みどり公社、青葉二丁目自治会共催による避難・防災訓練を実施しました。1号館 栄養実習室から火災が発生したとの想定で、教職員が学生を相模原市広域避難所である淵野辺公園中央広場に誘導し、地震体験車による地震体験、煙体験ハウスによる煙体験等の訓練をしました。



就職懇談会

2018年5月28日(月)、キャリアデザインⅡの授業で、「卒業生を招いての就職懇談会」を開催しました。認定こども園(幼保連携型)、公立保育所(相模原市)、幼稚園、認定こども園(幼稚園型)、児童養護施設に勤務している5名の卒業生を招き、就職活動体験、保育者としての仕事のやりがいなどについて講演をしていただきました。学生たちは、真剣な表情でメモを熱心にとりながら先輩方の話を聞いていました。



後援会第11回総会

2018年6月2日(土)、和泉短期大学後援会第11回総会が開催されました。雑賀えり子後援会会长の挨拶に始まり、佐藤守男学長、加納一志父母会会长、遠藤陽子同窓会会长による来賓挨拶、2017年度事業報告および決算、2018年度事業計画および予算、新役員の選出について審議され、全て承認されました。また、長年にわたり、いずみ祭の模擬店で「焼きそば」を作ってくれた中島弘光元教授に、後援会から心を込めた感謝状と記念品が手渡されました。総会後には、特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局次長兼支援事業部長の松浦宏二様による記念講演「和泉短期大学のルーツ！～チャイルド・ファンド・ジャパンのバトンを受けて～」が行われました。



青葉2丁目住民の方々との交流（介護福祉専攻科）

介護福祉専攻科では、高齢者とのコミュニケーションを学びますが、実際に高齢者に接したことでも話したこともあまりない学生もいます。

そこで「生活支援の基本」の授業では、【高齢者を理解する】というテーマで青葉2丁目の90歳代、80歳代、70歳代の高齢者の方々にゲストスピーカーとして、参加していただき、学生からの質問を受け、高齢者がお話しすることをしています。年代によって、質問内容を工夫したり、耳の悪い方には近くから話しかけることなどを学びました。



— 2017年度決算書概要説明 —

健全な経営状態

2018年5月26日(土)開催の理事会、評議員会において2017年度決算が承認されました。

2017年度決算概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、経営状態を表す「事業活動収支計算書」、財政の安全性を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2017年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入合計は680,379千円です。これに対し、資金支出合計は、675,785千円です。

2017年度末支払資金である翌年度繰越支払資金(現金預金)は2,125,578千円で、前年度繰越支払資金(現金預金)に比べ資金収支差額は、4,594千円増加しました。

事業活動収支計算書は、当該年度の学校法人の収入及び支出の均衡状況を明らかにし、学校法人が健全であるかを示す計算書です。3つの収支区分(①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支)から構成されています。

経常収入(教育活動収入680,000千円と教育活動外収入14,994千円)694,994千円の約85%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本法人の運営に甚大な影響を及ぼすことになります。事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)40,407千円から第1号基本金10,042千円と第3号基本金615千円の合計額である10,657千円の基本金を組入れた後の当年度収支差額は29,750千円収入超過でした。

教育活動支出の大半を占める人件費は、398,813千円で人件費比率は、57.4%です。教育研究経費は、156,490千円、管理経費は、105,753千円でした。

3つの区分の合計額である事業活動収入計は702,779千円、事業活動支出計は、662,372千円でした。

2017年度予算の事業活動収支差額は48,339千円支出超過でしたが、決算では、国庫補助金、受取利息の増収、教育研究費、管理経費の維持管理の効率的、効果的な支出を図り、予備費(30,000千円)を使用しなかったことにより、40,407千円収入超過になりました。

貸借対照表は、2017年度末における当法人の資産の部、負債の部、純資産の部の3つの要素から構成され、学校法人の財政状態を明らかにする計算書です。有形固定資産の土地、建物、構築物、機器備品等については、取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。

資産の部合計は、8,678,624千円です。退職給与引当金と前受金が大部分を占める負債の部合計は、375,709千円です。基本金と繰越収支差額で構成されている純資産の部合計は、8,302,915千円です。負債の部合計と純資産の部合計は8,678,624千円です。

— 2018年度予算書概要説明 —

厳しい予算編成

2018年3月23日(金)評議員会、理事会において2018年度予算が承認されました。

計算書類の予算書は、資金収支予算書と事業活動収支予算書で構成されます。

2018年度予算の概要を説明いたします。

資金収支予算書の資金収入合計は、772,594千円、資金支出合計は860,795千円です。

資金収支差額は、88,201千円支出超過になる見込みです。

事業活動収支予算書は、教育活動収支、教育活動外収支、特別収支の3つに区分され、区分ごとに収支差額を求めます。

事業活動収入計は592,650千円です。基本金組入額合計は、127,260千円です。

事業活動支出計は予備費を含め717,910千円です。2018年度収支差額は、125,260千円支出超過になり、事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)は127,956千円支出超過になり、大変厳しい状況です。

今後の和泉短期大学の財政見通しについて

少子化による18歳人口の減少(2018年度問題)、4年制の保育者養成校の増加、入学定員の厳格化等、本学を取り巻く経営環境は年々厳しさを増しています。また、2017年度は、私立大学の約40%(229校)、短期大学の約67%(204校)が入学定員未充足の状況です。

本学は、経常収入の約85%を学納金に依存している現状において、入学者の定員確保、離学者の防止は喫緊の課題です。

2017年度は、学生食堂天井(非構造物)耐震補強工事、災害対策用井戸設置工事の他は、大きな修繕工事はありませんが、相模原市に移転後42年が経過し、校舎等の修繕工事計画及び教育研究活動の維持向上を図るために教育環境の整備計画及び経費の削減をはじめとした経営の効率化とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図って参ります。

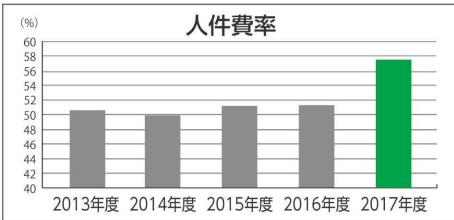
深町正信理事長による「2018年度学校法人和泉短期大学の基本構想」は、4つ柱として1. 専攻科介護福祉専攻存続の検討、2. 入試・広報活動の再点検、3. 社会福祉法人相模和泉福祉会と泉保育園との協力関係の構築、4. 収支均衡により法人の財政状態の維持を中心に事業展開をして参ります。

年々厳しさを増している状況下において、本学の教育環境を整備充実させていくために、2018年度も教育環境充実資金募金活動を行います。また、さらなる発展を目指して今後も「出るを制して、入るを計る」ことを原則とし、日頃から業務改善に取り組み、一層効率的にそして慎重に予算執行を行い、資金の有効活用に努めます。

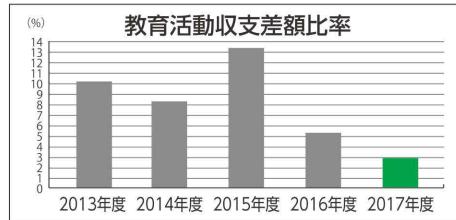
建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」、スクールモットーである「愛と奉仕」に基づいた特色のある教育を展開し、学生にとって居心地の良い明るいキャンパス、地元密着型、実力養成型の短期大学を目指して教職員、法人関係者一体となって努力して参ります。

事務局長 土橋正文

— (2013年度～2017年度) 財務比率推移(グラフ)と説明 —



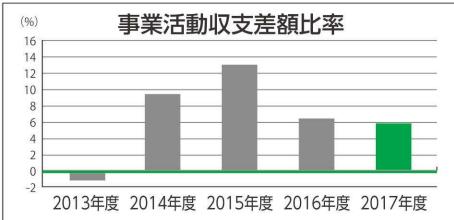
経常収入に対する人件費の割合。50%以内が目安です。人件費は、経常支出の中でも最大の比重を占める支出です。人件費が膨らんでいくと収支状況の悪化を招きやすい。学生数の減少は比率の上昇を意味するため、人件費削減対策は最も重要な課題です。2017年度は6.2ポイント上昇しました。



本業である教育活動の収支バランスを表す比率。学校本来の教育活動による収支差額を表わしていて、本業である教育活動収入の範囲内でどの程度余裕を持って運営できているかを把握することができます。



事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率。90%以上になると経営が困難になると想われています。臨時の固定資産の取得等による基本金組入が著しく大きい年において、一時に上昇する場合もある。2013年度は、5号館売却による不動産処分差額により100%を超過しました。



経常的な活動に関する収支バランスを表す比率。この比率は、臨時の収支を考慮しない通常の事業活動による収支バランスを示す比率のため、支出超過の場合は財政がひっ迫していることを表しています。支出超過分が、減価償却額の範囲内であれば、資金ショートを起こすことはありません。経営の健全性を表す指標です。



経常収入に占める学生生徒等納付金の割合。経常収入に占める学生生徒等納付金への依存度が高いため、学生数の減少は、経営に甚大な影響を及ぼし補助金、その他の収入の増額を諒る必要があります。

— 資金収支計算書概要 —

収入の部

科 目	2017 年度決算額	2018 年度予算額
学生生徒等納付金収入	592,494	511,160
手 数 料 収 入	7,135	8,358
寄 付 金 収 入	3,545	1,000
補 助 金 収 入	61,024	46,100
国 庫 補 助 金	60,942	46,000
地方公共団体補助金	82	100
付隨事業・収益事業収入	1,261	300
受取利息・配当金収入	14,994	15,864
雑 収 入	19,874	8,186
前 受 金 収 入	170,420	213,450
そ の 他 の 収 入	20,454	142,012
資金収入調整勘定	△ 210,822	△ 173,836
資 金 収 入 合 計	680,379	772,594
前年度繰越支払資金	2,120,984	2,125,578
収 入 の 部 合 計	2,801,363	2,898,172

支出の部

科 目	2017 年度決算額	2018 年度予算額
人 件 費 支 出	401,712	397,866
教 育 研 究 経 費 支 出	97,703	111,984
管 理 経 費 支 出	98,188	113,483
施 設 関 係 支 出	7,498	121,762
設 備 関 係 支 出	5,055	6,583
資 産 運 用 支 出	75,234	69,578
そ の 他 の 支 出	7,977	11,176
[予 備 費]		30,000
資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 17,582	△ 1,637
資 金 支 出 の 部 合 計	675,785	860,795
翌年度繰越支払資金	2,125,578	2,037,377
支 出 の 部 合 計	2,801,363	2,898,172
資 金 収 支 差 額	4,594	△ 88,201

— 事業活動収支計算書概要 —

		(単位:千円)	
教 育 活 動 収 支	事業活動収入の部	科 目	2017 年度決算額
		学生生徒等納付金	592,494
		手数料	7,135
		寄付金収入	3,628
		経常費等補助金	55,608
		付隨事業収入	1,261
		雑収入	19,874
		教育活動収入計	680,000
		人件費	398,813
		専任教員給	203,623
教 育 活 動 支 出 の 部	事業活動支出の部	兼任教員給	18,937
		専任職員給	145,611
		兼任職員給	13,533
		役員報酬	3,740
		退職給与引当繰入額	9,114
		退職金	4,255
		教育研究経費	156,490
		(減価償却額)	58,703
		管理経費	105,753
		(減価償却額)	7,369
教 育 活 動 支 出 の 部	教育活動支出計	(広報宣伝費)	19,618
		教育活動収支差額	661,056
		△ 110,882	
	受取利息・配当金	14,994	15,864
	教育活動外収入計	14,994	15,864
	教育活動外支出計	0	0
	教育活動外収支差額	14,994	15,864
	経常収支差額	33,938	△ 95,018
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	7,785	0
特 別 収 支	特別収入計	7,785	0
	資産処分差額	654	242
	その他の特別支出	662	0
	特別支出計	1,316	242
	特別収支差額	6,469	△ 242
	[予 備 費]		30,000
	基本金組入前当年度収支差額	40,407	△ 125,260
	基本金組入額合計	△ 10,657	△ 127,956
	当年度収支差額	29,750	△ 253,216
	前年度繰越収支差額	2,927,575	2,957,325
負 債 の 部	基本金取崩額	0	0
	翌年度繰越収支差額	2,957,325	2,704,109
	事業活動収入計	702,779	592,650
	事業活動支出計	662,372	717,910
	事業活動収支差額(基本金組入前当年度収支差額)	40,407	△ 125,260
	事業活動収支差額比率(旧帰属収支差額比率)	5.7%	△ 21.1%

— 2017年度 貸借対照表概要〈2018年 3月31日〉 —

(単位:千円)			
資産の部			
科 目	2017 年度末	2016 年度末	増 減
固定資産	6,530,525	6,516,947	13,578
有形固定資産	2,943,417	2,995,070	△ 51,653
土 地	1,928,418	1,928,418	0
建 物	859,171	905,768	△ 46,597
構 築 物	14,978	15,397	△ 419
教育研究用機器備品	49,498	53,208	△ 3,710
管理用機器備品	8,328	10,080	△ 1,752
図 書	83,024	82,199	825
特定資産	2,830,441	2,770,026	60,415
第2号基本金引当特定資産	100,000	100,000	0
第3号基本金引当特定資産	331,861	331,246	615
減価償却引当特定資産	1,856,580	1,792,580	64,000
退職給与引当特定資産	182,000	186,200	△ 4,200
施設拡充引当特定資産	360,000	360,000	0
その他の固定資産	756,667	751,851	4,816
電 話 加 入 権	690	690	0
施 設 利 用 権	550	701	△ 151
有 価 証 券	9,600	14,000	△ 4,400
定 期 預 金	736,327	727,727	8,600
積 立 保 険 金	9,500	8,733	767
流動資産	2,148,099	2,129,793	18,306
現 金 預 金	2,125,578	2,120,984	4,594
未 収 入 金	19,257	4,686	14,571
貯 藏 品	3,264	4,123	△ 859
資 産 の 部 合 計	8,678,624	8,646,740	31,884

(単位:千円)			
負債の部			
科 目	2017 年度末	2016 年度末	増 減
固定負債	181,790	184,689	△ 2,899
退職給与引当金	179,240	182,139	△ 2,899
預り敷金	2,550	2,550	0
流動負債	193,919	199,542	△ 5,623
未 払 金	17,582	1,747	15,835
前 受 金	170,420	191,565	△ 21,145
預 金	5,917	6,230	△ 313
負 債 の 部 合 計	375,709	384,231	△ 8,522
純資産の部			
科 目	2017 年度末	2016 年度末	増 減
基本金	5,345,590	5,334,934	10,656
第1号基本金	4,863,729	4,853,688	10,041
第2号基本金	100,000	100,000	0
第3号基本金	331,861	331,246	615
第4号基本金	50,000	50,000	0
繰越収支差額	2,957,325	2,927,575	29,750
翌年度繰越収支差額	2,957,325	2,927,575	29,750
純 資 産 の 部 合 計	8,302,915	8,262,509	40,406
負債の部、純資産の部	8,678,624	8,646,740	31,884

注記 1. 減価償却額の累計額の合計額
 2. 翌会計年度以降の基本金への組入額

1,919,072 千円
 0 千円

2017年度『教育環境充実資金募金』のご報告

ご寄付者数 85件(2017年5月1日～2018年3月31日) 寄付金総額 1,815,000円

寄付者一覧(敬称略)<2018年2月24日～2018年3月31日>

国際ソロップミスト相模／山口 博明／福士 輝彦 以上3件 75,000円

2018年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2018年5月に学校法人和泉短期大学は創立62年を迎えます。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生19,025名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げる次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2018年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金対象事業

震災・災害対策：1号館3階図書館天井耐震補強工事

教育環境整備：ノートパソコン33台増設

(ラーニングセンター will)

寄付者一覧(敬称略)<2018年6月1日～7月31日>

渡辺 毅／山崎 勉／高橋 麗子／山口 裕之／湯本

武王／松本 和夫／長山 篤子／福嶋美佐子／久保

芳子／

川井 俊幸／片山 知子／今泉 治子／山本美貴子／武石

宣子／八代 陽子／小澤 博道／下西 潤子／横川

剛毅／

松下 誠／森 三樹／佐藤 秀夫／池田 悅子／小椋

郊一／岸川 洋治／石川 佳代／佐久間志保子／伊藤

忠彦／

佐藤 美紀／小野家善郎／深町正信・順子

以上30件

490,000円

募金目標金額 10,000,000円

募金募集期間 2018年6月1日～2019年3月31日

募資金額 1 個人 1 口 5,000円
2 法人 1 口 10,000円

所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

募金担当部署

学校法人

和泉短期大学

庶務ユニット(経理担当) 042-754-1133

第52回いづみ祭「秋だ！いづみだ！和泉祭だ！～IZUMI festival 2018～

10月27日(土)・28日(日)に第52回「いづみ祭」を開催します。テーマは、「秋だ！いづみだ！和泉祭だ！～IZUMI festival 2018～」です。各グループが一致団結して歌い上げる見事な合唱と歌に合わせたパフォーマンスのサウンドコンテスト、子どもから大人まで楽しめる様々な出し物や模擬店、高校生向けの個別相談会など、イベントが盛りだくさんです。

熱気と感動に包まれるいづみ祭にぜひお越し下さい。

いづみのひろっぱ(同窓会主催)

10月28日(日)10時～14時 於：200教室(予定)

スクールバス発車時刻(両日)

相模大野駅・淵野辺駅共

9時30分、10時30分、11時30分、12時30分



夏期休業中の工事について

夏期休業期間に下記の通り工事を実施します。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力を宜しくお願ひいたします。

No.	工事名	場 所	日 程
1	受電PAS用接地抵抗改修工事	4号館西側植栽内	7月26日(木)
2	受変電設備高圧コンデンサー更新工事	1号館第2変電所内	7月29日(日)
3	受変電設備LBS更新工事	2号館キュービクル内	7月29日(日)
4	ブロック塀撤去工事及びネットフェンス設置工事	2号館外周	7月30(月)～8月8日(水)
5	玄関照明改修工事	1号館正面玄関脇	8月期日未定
6	西門門柱にセンサーライト設置工事	1号館西門	8月期日未定
7	和泉クラーク・ホールエントランス扉及び周囲改修工事	3号館2階和泉クラーク・ホール	8月6日(月)～9日(木)
8	ピアノ調律	1・3・4号館	8月6日(月)～9日(木)
9	配電盤ブレーカー更新工事	1号館1～3階	8月14日(火)・16日(木)・19日(日)・26日(日)
10	水中ポンプ交換他工事	1号館中庭	8月期日未定

夏期一斉休暇期間 8月13日(月)～17日(金)

庶務ユニット(施設担当)